



# さだ公民館だより

令和6年5月21日 98号  
編集・発行 佐田地区公民館  
電話：44-0312

## 宇佐両院避難所体験学習会

日時 令和6年5月7日（火）13時より  
場所 安心院中央公民館 多目的ホール  
講師 沖本佳代氏（日本赤十字社大分県支部 事業推進課）  
参加者 30数名



内容 避難所を想定した図面にカードを置いていくゲーム形式の体験学習をした。  
カードには（幼児連れ・高齢者・外国人・旅行者・身体の不自由な人・体調が悪い人・毛布が届いた・給水車到着・ペット連れ等）様々な、避難者や救援物資など書かれていて、そのカードを引きながら避難所のどこに案内するのか頭を使って考えるゲームでした。（「避難所運営ゲーム」皆さんもやってみては、勉強になります。）  
ゲーム終了結果、最終的には図面の想定した避難所内はぐちゃぐちゃで身動きできない状態になっていた。

最初に考えるべきは、通路の確保だと思った。

避難した人達が生活しやすい動線を優先して考えることが大切、慌てず落ち着いて行動したいと思った。

自然災害、何時起こるかわからない、今起こるかもしれない、常日頃から災害に備えた準備を怠らずに、体制を整えておくこと大切だと感じた。

### 俳句教室

令和六年四月 三九四号  
佐田句会四月十六日 佐田公民館（七名）

兼題 春惜しむ 竹の秋

松本公節 選評

○葉擦れ音枝をふるはず竹の秋

彰裕

○空を掃く箒の如し竹の秋

”

（評）竹林は微かな風でも「葉擦れ音」して、葉を散らします。「空を掃く」が新しい感覚の佳句。

○一片の花びら肩に春惜しむ

義彦

（評）女性かと思わせるほどの繊細な秀逸句。

○惜春の青さを仰ぎ見る

まさ子

（評）何も足さず、何も引かない。「仰ぎ見る」だけで、惜春の思いが伝わります

○春惜しむ下駄の鼻緒の切れしまゝ

美佐子

（評）「鼻緒きれしまゝ」が切なく惜春の思いに重なっている。

○裏山の風おだやかな竹の秋

二三華

（評）竹と風は切り離せなく、いつもさわさわ感があります。

○疼痛に何もできずに春惜し

征子

（評）外は花開き春爛漫だが、作者は「疼痛」でそれどころではない。正に悔しい「春惜しむ」である。

選者吟 さざ波に消えゆる足跡春惜しむ

次回は五月二十一日佐田公民館 十三時より

兼題は 柿若葉 母の日 更衣 です

## 令和6年度第1回

# あじむ学講座のご案内

本年度第1回あじむ学講座を、下記のとおり実施する予定です。  
ぜひ大勢の方に参加していただき、あじむの歴史を学んでみてはと考えています。

記

日時 令和6年6月15日(土) 10:00~11:30

\*小雨・・決行 雨天時は、16日(日)順延

(問い合わせ先: 090-1367-2508 恵藤まで)

場所 安心院旅行村 花の広場・・現地集合

\*三女神社隣のオートキャンプ場です

【現地見学後・・管理棟(土器保管場所)移動】

講師 大分県立埋蔵文化センター勤務

坂本 嘉弘 氏 (由布市挟間町在住)



演題 「宮ノ原遺跡の発掘現場見学と安心院盆地との関り

出土した土器類の時代ごとの検証など」

宮ノ原遺跡の土器類発掘調査に携わった、先生の説明を聞きながら、また実際に出土した土器の見学など、あじむの歴史を学習しませんか、お待ちしております。

もうすぐ夏至だ！

夏至とは、一年で一番昼の長さが長い日です、二〇二四年の夏至は、6月21日(金)。

北極圏では白夜になり、24時間太陽が沈むことがありません。また、日本を含めた北半球で夏至を迎えるころ、南半球は冬至に該当し日が出ている時間が最も短くなります。

夏至は「夏に至る」という言葉の通り、本格的な夏の始まりを意味し、今後日増しに気温が上がってくる時期です。

夏至は昼の時間が長いので、風水の観点から「陽」のエネルギーが高まる日と考えられています。日光浴で太陽のエネルギーを取り込むと、運氣アップが期待できそうです。

エネルギーが切り替わる日ともいわれているので体質改善を試みたり、新しいものを買ったりすることも好みたいですね。

昼の長い夏至を区切りに、新しいパワーを取り入れ楽しい日々を送りましょう。

お詫び

★前号で、亡 岩男達生さん(大久保)の、寄付の紹介をしましたが、名前の誤りがありましたので、訂正しお詫びいたします。申し訳ありませんでした。

佐田公民館だより QR コード  
スマホからカラーで閲覧できます。

